

令和3年12月 定例教育委員会々議録

1 日 時 令和3年12月23日(木) 午後1時30分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室301

3 出席委員の氏名

教 育 長	山 田 公 一	教育長職務代理者	中 野 信 男
委 員	秦 久美子	委 員	齋 藤 純 郎
委 員	小 林 恵 子	委 員	上 田 佳 澄

4 説明のため出席した職員

教 育 次 長	太 田 和 行	主 幹	鈴 木 華 奈 子
学 校 教 育 課 長	岡 部 清 美	子 育 て 支 援 課 長	白 井 健 次
社 会 教 育 課 長	石 田 進 一	統 括 指 導 主 事	五 十 嵐 真 紀 子

5 本委員会書記

学校教育課 向 井 康 弘 他 3 名

6 傍聴人

2 人

7 会議に付議した事件

会議録の承認

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第11号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第9号 新規共催・後援申請について

協議第10号 松長小学校の今後の在り方に関する方針について

## 議 案

議案第 41 号 燕市児童館条例施行規則の一部改正について

議案第 42 号 燕市部活動の在り方検討委員会設置要綱の制定について

## その他

(1) 令和3年第4回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

1) 一般質問の概要について

2) 契約の締結について（吉田トレーニングセンター大規模改修工事（建築））

3) 契約の締結について（吉田トレーニングセンター大規模改修工事（機械設備））

4) 令和3年度燕市一般会計補正予算（第12号）

## 8 閉 会

会議録

別紙のとおり

## 1 開 会 宣 言 午後 1 時 30 分～

## 2 会議録の承認

全員異議なく、令和 3 年 11 月定例教育委員会々議録は承認された。

## 3 諸報告

### (1) 行事報告及び行事予定

〈各課長が報告〉

#### ○委員（斎藤 純郎）

燕ジュニア検定表彰式について、今年も大勢の児童がチャレンジをしてくれて嬉しい限りである。教育長特別賞を授与された皆さんの榮譽を称えたい。また、チャレンジしてくれた児童全員に「よく頑張ったね」と声をかけてあげたい。

表彰式の児童代表挨拶で、島上小学校の児童が「家族で問題を出し合って勉強した」と話していた。燕ジュニア検定問題集が家族間のコミュニケーションのツールになっていることを知り、とても嬉しく思った。

燕市と吉田町、分水町の 1 市 2 町が合併して誕生した新生燕市の特色を子どもたちから知ってもらい、燕市に誇りを持ってもらおうと制作した燕ジュニア検定も 10 回を数えた。この間、問題集も改訂版を発行し、回答方法も数字の記述式からマークシートへ、さらにタブレットで回答するというように進化してきた。

今後も末永く燕ジュニア検定を実施していただき、「燕は一つ」を児童の皆さんから実現してもらいたいと願っている。

#### ○委員（斎藤 純郎）

「いじめ防止対策等専門委員会」について、今後の委員会の進め方を伺う。

#### ○主幹（鈴木 華奈子）

今後の進め方は、前回開催時に委員長から「1 月 13 日（木）に 3 回目の委員会を実施する。対象生徒が『いじめ』をどのようなものと捉えていたのかということに迫ることができるよう追加の資料や調査を求めたので、それをもとに委員会を開き、最終報告書を提出する予定である」という話があった。

#### ○委員（斎藤 純郎）

専門委員会の皆さまにおかれましては、引き続き尽力いただき調査を進めていただきたい。

○委員（斎藤 純郎）

令和3年度 Jack&Betty プロジェクト国内英語研修事業について、コロナ禍で実施できなかった海外派遣事業をこのような形で代替で実施していただきありがたい。参加される皆さんには英語漬けの4日間を堪能してほしい。

○学校教育課長（岡部 清美）

海外派遣事業が実施できればよかったが、コロナ禍ということで断念した。しかし、国内にも英語学習ができる施設があったため、海外派遣の代替としてこの施設への派遣を実施した。年末の忙しい時期での実施であったが、ご理解いただいた保護者の方には感謝している。1名辞退したことは残念だが、参加する生徒にとって実りある研修となるよう、職員でサポートする。

○委員（斎藤 純郎）

「水道の塔の安全対策に関する技術委員会」について、今回の協議を踏まえて一定の方向性を示せるのはいつになるか。

○社会教育課長（石田 進一）

時期を明言するのは難しいが、議会にも諮りながら、早めに方向性が示せるようスピード感をもって取り組みたい。

○委員（斎藤 純郎）

安全性と費用の両面を検討いただき、より良い方策を導き出せるように努力していただきたい。

○委員（中野 信男）

Jack&Betty プロジェクトのブリティッシュヒルズでの活動について、ホームページを見てもどのようなことをするのかイメージしにくい。どのような活動をするのか簡単に説明していただきたい。

○統括指導主事（五十嵐 真紀子）

ブリティッシュヒルズは敷地や建物が英国式であり、スタッフも外国の方で、日本にいながらオールイングリッシュの外国の生活を体験することができる施設である。

○委員（小林 恵子）

私自身、教師になってから、文部科学省や民間の研修に参加して、オールイングリッシュ体験をしたことがある。日本語が使えない環境に身を置くことで「こんな時はどうやって英語で伝えればいいのか」を常に考えることになるので、ブリティッシュヒルズでの研修は子どもたちにとって非常にいい経験になると思う。

## (2) 教育長報告

〈山田教育長が以下のとおり報告〉

### 1 はじめに

- 新型コロナウイルス感染症については、全国的には落ち着いているものの、新潟県の感染者が他県と比べて多いのではないかと危惧していた矢先、県内の複数の小学校でクラスターが発生したとの報道があった。
- ワクチン接種が進んだこともあり、少し気が緩んでいたところもあるかと思うので、改めて各学校に感染症対策の徹底をお願いした。
- 年末年始を控え、人の動きも活発になる時期でもあるので、私も含め、各自が公私にわたり感染症対策を徹底する必要があると思っている。

### 2 令和3年第4回燕市議会定例会（12月議会）の報告

#### 【議案について】

- 教育委員会に係る議案は、次の10件であった。
  - ① 燕市児童館条例の一部改正について
  - ② 燕市児童クラブ条例の一部改正について
  - ③ 燕市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について
  - ④ 燕市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
  - ⑤ 指定管理者の指定について（燕市小池公民館）
  - ⑥ 令和3年度燕市一般会計補正予算（第11号）
  - ⑦ 令和3年度燕市土地取得特別会計補正予算（第1号）

#### 【追加議案】

- ⑧ 契約の締結について（吉田トレーニングセンター大規模改修工事（建築））
  - ⑨ 契約の締結について（吉田トレーニングセンター大規模改修工事（機械設備））
  - ⑩ 令和3年度燕市一般会計補正予算（第12号）
- ※いずれの議案も、議会最終日の12月20日（月）に採決が行われ、原案のとおり可決された。

#### 【一般質問】

- 教育委員会に対する主な一般質問は、次のとおり。
  - ・教育委員会の組織運営上の課題について
  - ・児童生徒へのタブレット配置後の課題と今後の活用について
  - ・ヤングケアラー支援のための実態調査について
  - ・調和を重視し過ぎる今の教育の課題について
  - ・いじめの早期発見の取組について
  - ・教職員へのいじめ問題のスキルアップの手法について
  - ・教育委員会、学校、保護者の位置関係と信頼構築に向けた考え方について

- ・文科省の児童生徒のいじめ等の調査結果を受けての市教育委員会における協議状況について
- ・SNSによるいじめへの対策等について
- ・いじめ情報に対する対応システムと責任の明確化について
- ・松長小学校の今後の在り方検討会の総括と今後の考え方について
- ・複式学級の教育環境に関する市の考え方について
- ・リーディングスキルテストについて
- ・SDGsの教育委員会の取組について
- ・八街市の事故を受けての通学路の安全対策について
- ・放課後児童クラブの利用状況と児童の安全について
- ・使用していない小学校プールの管理状況について
- ・就学援助費の援助費目と支給対象の拡大について
- ・市展の審査のあり方及び会場の設営について

#### 【議員協議会】

- 議員協議会において協議した案件は、次のとおり。
  - ・令和4年度策定の各種計画の延長について

### 3 12月の行事から

#### (1) 燕ジュニア検定表彰式 (12月4日 (土))

- 11月1日 (月) に実施した第10回燕ジュニア検定の表彰式を12月4日に燕市役所つばめホールで開催した。
- 表彰式では、最も難しいAクラスの満点者11名 (6年生7人、5年生4人) に教育長特別賞、燕ジュニア博士Aの認定証及び、つばけん博士のピンバッジを授与させていただいた。
- ジュニア博士の皆さんが、今後も燕市の魅力をどんどん発見し、多くの方々にその魅力を伝えていってくださることを期待したい。

#### (2) 令和3年度第2回燕市文化会館運営審議会 (12月15日 (水))

- 令和3年度第2回目となる燕市文化会館運営審議会を12月15日に中央公民館中ホールで開催した。
- 審議会では、令和3年度の文化会館自主事業の実施状況や文化会館の利用状況について、11月30日時点での報告を行うとともに、令和4年度の文化会館自主事業の実施計画について協議していただいた。

ちなみに、文化会館全体での利用者数は、令和3年11月30日時点、11,654人で、前年度同時期の利用者数が4,815人であったことから、令和2年度と比較すると倍増しているものの、平成30年度の同時期は34,605人であり、コロナ禍前の約1/3にとどまっている状況である。

- 今後も、委員の皆様とともに感染症と共存しなければならない時代における文化会館事業の在り方について、模索していかねばならないと考えている。

#### 4 結びに

- 12月議会の一般質問で、小林議員から教育委員会の組織運営上の課題について問われ、リスクマネジメントと若手職員の育成が課題であるとお答えした。

リスクマネジメントに関しては、日々の業務に「さ・し・す・せ・そ」「最悪を想定して・慎重に・素早く・誠意をもって・組織で対応する」を常に意識して臨んでほしいと職員に伝えてきたつもりであるが、この機会に再度職員に「さ・し・す・せ・そ」を意識するよう、呼び掛けたところである。

また、リスクマネジメントや若手職員の育成を行ううえで重要なのは、私と職員の間で気兼ねすることなく議論できる、話ができる、風通しの良い職場環境であると考えている。こうした職場環境をともにつくろうと、教育長就任直後から繰り返し職員に伝えてきたが、まだまだ十分とは言えないと感じているので、改めて職員に働きかけたいと思っている。

#### (3) 寄附報告

2件の寄附について

〈No. 1 について岡部学校教育課長が説明〉

〈No. 2 について白井子育て支援課長が説明〉

#### 4 専決処分の報告について

報告第 11 号 共催・後援の教育長専決報告について

2件の後援申請について

〈No. 1、2 について石田社会教育課長が説明〉

#### 5 協議題

協議第 9 号 新規共催・後援申請について

1件の後援申請について

〈No. 1 について石田社会教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく協議第 9 号は承認された。

協議第 10 号 松長小学校の今後の在り方に関する方針について

〈岡部学校教育課長が説明〉

#### ○委員（小林 恵子）

令和4年度の新入学者数が5名ということが心配である。

現在の学校で求められていることは2点ある。1点目は人とのかかわりの中で社会性を育てること。2点目は、色々な人々と交流しながら主体的に自分の考えを相手に

伝えたり、相手の意見を聞いて新しい視点を自分に取り込んだり、様々な意見の中から現状に適したものをみんなで考えたりする「主体的・対話的で深い学び」である。それが5名だと難しい。さらに、以前から知っている子どもたち同士だと、話し合いという形になりやすく、多様性が出てきにくい。最低10人はいないと、「関わりながら深める」という学習が成立しにくい。令和4年度は5名で、令和5年度になると2、3年生と一緒に学習する複式学級になるという。複式学級では、学年別に分けて教えなければならない教科と、一緒に教えることができる教科があり、教師の負担も大きい。複式学級を避けるため、早急に統合すべきと考える。

○委員（斎藤 純郎）

小林委員の発言のとおり、個人で努力するだけでなく、様々なアイデアをお互いに出し合って新しいものを生まなければならない時代になっている。そのような時代においては、小さいコミュニティだと不十分である。正解が見つけられないような時代の中で、子どもたちの教育環境がどのような形がベストなのか考えることが我々の役割である。将来子どもたちが社会へ出るときのために社会性を育成することは、小学校の役割のひとつであると思うが、小規模校よりさらに児童数が少なく、複式学級となるような学校では、社会性を育むことは難しいと考える。子どもたちが社会性を育む環境を整えるために、統合に向けて取り組んでいただきたい。

統合先である小中川小学校では、最近では児童が主体となって環境を考える取組を行い、それがPTAや地域、事業所を巻き込んだ大きな取組になり、環境問題を考えることに一役買っている。また、燕ジュニア検定でも小中川小学校は優秀な成績を収めていた。松長小学校の児童と一緒にすることで、さらに力を合わせてより良い校風になることを期待している。

ただし、松長小学校の子どもたちを差別するようなことがないように、事前に両校の交流会を開催しコミュニケーションを深める工夫や、カウンセラーの活用などを行ってほしい。2年を待たずに早く統合するという意見もあるが、準備期間として2年は必要だと思っている。

○委員（上田 佳澄）

先ほどの斎藤委員と同じ意見である。アンケートの結果で現在の4年生以上の保護者は存続を望む声が多かったということを知っているから、令和6年度から統合するのが望ましいと思う。

統合までの間は、複式学級が避けられるよう教員の配置を増やすことができればそうしてほしい。

○主幹（鈴木 華奈子）

教員の配置を増やすなどして複式学級を避けて欲しいということだが、新潟県ではこれまでも、次年度に統合することが決まっている学校に対し、統合のための準備が必要ということで、県が教員を1名加配することが行われてきた。松長小学校にもそれと同様の対応がされることとなれば、複式学級が解消できる可能性がある。



○委員（中野 信男）

小林委員から、「児童が少なくなることによる弊害がある」との話があったが、私もそう思う。令和4年度から統合というのは現実的に難しいというのはわかるが、令和5年度から統合することは現実的に可能なのか。

○主幹（鈴木 華奈子）

学校の統合を行う際には、教員の配置等を決定するために、統合の前年度の9月中に県教育委員会へ報告する必要がある。よって、令和5年度から統合することは物理的には可能である。ただし、先ほど斎藤委員からも話があったとおり、子どもの心のケアや交流会の実施等、統合に向けて準備をする必要があるので、2年間はかけたいと考えている。

○委員（中野 信男）

それぞれにメリット・デメリットがあると思う。1日でも早く統合することが子どもたちのためになると思うので、可能ならば令和5年度に統合すべきと考える。

○委員（秦 久美子）

方針の2について、学区外の申請を受理するということが、極端な話、松長小学校に残る児童が1人でもいた場合は令和5年度末までは存続するということがいいのか。複式学級となると、令和4年度に入学する児童が2年生のときは上の学年である3年生と複式学級になり、3年生になると下の学年である2年生と複式学級になる。学年が進むにつれ、上の学年と複式になったり下の学年と複式になったりするので、子どもたちが学びの中で混乱するのではないかと思う。そうなることを防ぐためにも、1日でも早く統合することが子どもたちのためになると思う。

古くからの地域の繋がりを大事にする人たちの中には、学校がなくなることに抵抗を持ち、統合に踏み切れない人たちが多くいると思うが、その一方で統合を望む若い世代もいる。両者が安心して地域に住み続けられるように、また、お互いが納得できるよう統合に向けて進めるためにも、ある程度の準備期間が必要である。

○主幹（鈴木 華奈子）

児童が1人になったとしても、学習機会を保障するため学校を存続する。そういった事例は全国的にもある。

○委員（小林 恵子）

1人になった児童が年度途中で学区外就学することは認められるのか。

○主幹（鈴木 華奈子）

現在の学区外就学の制度でも、年度途中での学区外就学は可能である。

○委員（小林 恵子）

方針の2について、小中川小学校への学区外就学を希望する児童に対して令和4年

度からスクールバスの運行を実施するということだが、教育委員会の予想以上に児童が松長小学校から流出する可能性がある。そうすると教員の配置にも影響が出てくると思う。この方針について、地域の方への説明会はいつ実施する予定なのか。

○主幹（鈴木 華奈子）

地域説明会を、松長小学校区は12月26日（日）に開催する。小中川小学校区についてもできるだけ早いうちに実施する。

○委員（小林 恵子）

保護者は、説明会を受けて、自分の子供をどちらの学校へいつから通わせるかといった対応を考えるので、保護者の意向を確認するなどの準備が必要だと考える。

○主幹（鈴木 華奈子）

学区外就学の希望の有無は、保護者と児童の意思によるものである。教育委員会として集約は行わない。

○委員（小林 恵子）

松長小学校の児童が小中川小学校に移った場合の児童数はどのくらいになるのか。

○主幹（鈴木 華奈子）

住民基本台帳を基に算出すると、各学年2学級ずつになる見込みである。

○委員（小林 恵子）

松長小学校の児童が小中川小学校に移ると、今までの松長小学校の環境よりも人数が増え人間関係も変わってくる。人数が増えることで目が届きにくくなることもあるかと思うので、学習支援員やスクールカウンセラーを配置するなどして、児童のケアをすべきである。

○主幹（鈴木 華奈子）

検討会からもそのような要望があった。前向きに検討する。

○委員（斎藤 純郎）

子どもたちが社会性を育むことができるよう、統合に向けて取り組んでいただきたい。松長小学校の児童と小中川小学校の児童が一緒になることで、さらに力を合わせてより良い校風になるように期待したい。市町村合併と学校の統合は違うかもしれないが、現在の燕市も、1市2町が、それぞれが持っている良さを出して、お互いに認め合いながら歩んでいる。松長小学校と小中川小学校も、そのような形でより良い校風を作ってほしい。

上田委員や小林委員からもお話しがあったとおり、教員の配置について県教育委員会へ依頼してほしい。学習支援員の充実やハードを含めた教育環境の整備など、市で

出来る事は力を入れて実施していただきたい。

地域説明会を実施するということだが、地域の皆さんから「学校がなくなることは寂しいことで、地域コミュニティから灯が消えるようで困る」という声があると聞いているし、その気持ちもよくわかる。しかし、方針の3によると、松長小学校の跡地活用については市長部局に引き継ぐということなので、良い活用法を考えていただき、住民の皆さんと共に魅力的な地域になるよう取り組んでいただきたい。

教育委員会としては、子どもたちのことを第一に考え、統合に向けて舵を切っていただきたい。統合までの間、差別が起こらないように両校の交流会を開催することなどを考えると、2年は必要だと思う。

○委員（小林 恵子）

4～6年生の保護者は存続を希望する人が多く、1～3年生の保護者は統合を希望している人が多いということである。いざ蓋を開けてみたら松長小学校に残る児童数が、想定外の人数になった場合、再検討する機会はあるのか。

○主幹（鈴木 華奈子）

今後、準備委員会という形で統合へ向けた準備を進めるための検討会を立ち上げる予定である。そこで、状況に応じて再検討する。

○委員（上田 佳澄）

松長小学校の現在の2年生が9名であるが、親同士のコミュニティなどで相談して、令和4年度から9人全員で小中川小学校に学区外就学することが考えられる。

令和4年度からバスを運行することが書いてあると、確実に児童は減ると考えられる。令和5年度からにするのはどうか。

○主幹（鈴木 華奈子）

検討会でもそういった議論が行われたが、そこではどちらかの結論が出ることはなかった。それぞれの考えを尊重し、子どもたちによってより良い環境を作ることを考えるとこの案になる。

○委員（秦 久美子）

来年度は1年生が5名入学するということだが、統合することが決まっているということであれば、5名全員が小中川小学校へ入学を選択し、松長小に1年生がいないということもあり得る。2・3年生も、保護者アンケートによると統合を望む声が多かったということなので、学区外就学をする人が多いかもしれない。4～6年生は今まで松長小学校で過ごしてきたので、このまま卒業式までいたいという気持ちがあると思うが、兄弟がいる世帯では下の子と同じように学区外就学を選択する家庭もあるのではないか。しかし、児童が1人になっても学校は存続するということなので、最後まで残る子がいることも考えられ、色々な場合が考えられる。

現在の小中川小学校の学級数は各学年2学級ずつで、統合後も変わらない。松長小

学校のような児童数の少ない学校は、中学校へ進学すると、同級生がばらけて不安になるが、子どもたちは順応性があるのですぐに他の子どもたちと仲良くなれると思う。もともと中学校になると同じ学校に通うことになっており、それが統合によって早くなったと思えば、子どもたちの教育環境が極端に変わることはないと思うので、統合するのは早い方がいいと思う。

しかし、児童や保護者、地域住民などの感情を考慮する必要があると思うので、準備期間が必要だと考える。学校職員も準備に時間がかかると思う。2年かけてしっかりと準備を進め、地域住民に早い段階から統合する旨をアナウンスすることで、大人も子どもたちも皆が納得でき、気持ちよく統合できると思う。そのためには、地域住民への説明会をしっかりと行ってほしい。

○委員（小林 恵子）

学級編成基準によると、隣り合った学年が16人以下で複式学級をすることになる。最悪の事態を想定すると、来年度に4～6年生で想定より多い人数が学区外就学で流出することで、上の学年でも複式学級をすることになる可能性も考えられるのではないかと。

説明会の資料に、学級編成基準のことを記載し、4～6年生の意見を考慮して令和6年度からの統合を決めたということがきちんと伝わるようにする必要があると思うが、そういったことを説明資料に入れることは可能か。

○主幹（鈴木 華奈子）

説明資料に示したい。

○委員（斎藤 純郎）

検討会の立ち上げやアンケートの実施など、学校教育課がここ数年で取り組んできたことは王道のやり方であり、様々な意見を取り入れることによってこの案が完成した。スクールバスを運行するなど、学区外就学をしたいという人たちにも寄り添っている。

先ほど市町村合併の話を出したが、燕市が合併したときは合併前の2年間で1市2町が自らの魅力に磨きをかけた。そうしたことにより、新しい燕市に誇りを持つことが出来たと思う。学校の統合とは違うかもしれないが、松長小学校と小中川小学校も準備期間の2年間で自らの魅力を深掘りし、お互いの魅力を見つけ、尊重するビジョンを持ちながら、統合に向けて進んでほしい。

○主幹（鈴木 華奈子）

今回いただいた意見を受け止め、松長小学校と小中川小学校のそれぞれの良さを尊重し伸ばし合えるよう、教育委員会で支援していく。

○教育長（山田 公一）

今のところ、「出来るだけ早く統合した方がよい」という意見と「2年の準備期間

を設けた上で統合した方がよい」という意見が出ている。最終的に結論を出さなければならないが、いかがか。

○委員（斎藤 純郎）

協議第 10 号に賛成である。

○委員（小林 恵子）

実際に蓋を開けてみないとわからないことが多いが、この方針案については賛成である。

○委員（中野 信男）

この方針案に賛成する。この方針でしっかりと準備し、予想外のことが起きても臨機応変に対応してほしい。

○委員（上田 佳澄）

2 を読んで保護者がどう判断するかが気がりであるが、教員が加配されることを期待しつつ、この方針を受け入れる。

○委員（秦 久美子）

協議第 10 号に賛成する。今後どういう状況になるかはまだわからないが、様々な意見を汲み取って、各々の心情に配慮した案だと思う。

○教育長（山田 公一）

教育委員会として、この案を進めていく。

審議の結果、全員異議なく協議第 10 号は承認された。

## 6 議 案

議案第 41 号 燕市児童館条例施行規則の一部改正について

〈白井子育て支援課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく議案第 41 号は原案通り議決された。

議案第 42 号 燕市部活動の在り方検討委員会設置要綱の制定について

〈岡部学校教育課長が説明〉

審議の結果、全員異議なく議案第 42 号は原案通り議決された。

## 7 その他

### (1) 令和3年第4回燕市議会定例会（教育委員会関係抜粋）

#### 1) 一般質問の概要について

〈太田教育次長が説明〉

#### 2) 契約の締結について（吉田トレーニングセンター大規模改修工事（建築））

#### 3) 契約の締結について（吉田トレーニングセンター大規模改修工事（機械設備））

〈石田社会教育課長が一括で説明〉

### ○委員（斎藤 純郎）

社会教育課は、我々教育委員や市議会へ説明を重ね、意見を取り入れ計画を練り直しながら、この度の契約に辿り着いた。市内外の皆さまから喜んで利用していただける魅力ある施設にしてほしい。

### ○社会教育課長（石田 進一）

素晴らしい施設になるよう、しっかりと工事を進めたい。

#### 4) 令和3年度燕市一般会計補正予算（第12号）

〈石田社会教育課長が説明〉

## 8 閉 会 午後3時40分

燕市教育委員会会議規則（平成 18 年燕市教育委員会規則第 2 号）第 17 条第 2 項の  
規定により会議録に署名する。

令和 4 年 / 月 27 日

教 育 長 山田 公一

教 育 委 員 中野 信男

教 育 委 員 秦 久美子

教 育 委 員 斎藤 純郎

教 育 委 員 小林 恵子

教 育 委 員 上田 佳澄

会議録作成職員 志賀 覚子